

総合工学委員会 原子力安全に関する分科会
原発事故による環境汚染調査に関する検討小委員会
(第25期・第1回)

議 事 概 要

1. 日 時 令和3年6月15日(火) 10:00~11:45

出席者(敬称略): 植松光夫、大塚孝治、関村直人、森口祐一、青井考、五十嵐康人、伊藤好孝、岩崎俊樹、恩田裕一、木名瀬栄、篠原厚、高橋嘉夫、田上恵子、豊田新、星正治、箕輪はるか、山澤弘実(17名)

2. 場 所: オンライン会議

3. 議題および議事概要

(1) 小委員会の設置趣旨

- ・世話人として森口委員から、24期の活動を継承するとともに将来へつなげることを重視したい、との趣旨説明が行われた。

(2) 委員長・副委員長・幹事の選出について

- ・上位の分科会委員長の関村委員から、委員長として森口委員が推薦され、満場一致で承認された。
- ・日本学術会議の委員会構成の説明が森口委員から行われた。
- ・副委員長に恩田委員、幹事に伊藤委員、五十嵐委員が指名された。幹事はそれぞれデータアーカイブズ(DA)WG、事故と環境情報WGを担当する。事故と環境情報WGについては改編する意向との説明があった。
- ・出席者が自己紹介を行った。

(3) 議事要旨の提出に関する委員長一任について

- ・異議はなく承認された。

(4) 小委員会委員間のメールアドレス共有について

- ・異議はなく承認された。

(5) 24期までの活動に関する報告

- ・森口委員長から、前期活動の成果として学術会議「報告」があり、そのフォローアップとして報告の英文化についての提案と議論があった。対象とする読者をどのように設定するかが重要との指摘があった。役員を中心に検討を行う。

- ・伊藤委員より前期DAWGの活動の紹介があった。放射線測定データのメタデータベースとして名大宇宙地球環境研のホームページ上で公開、その他、福島大でのアーカイブ連絡会を開催し、ネットワーク作りを展開している。委員よりメタデータ収集だけでは不十分で、元のWebページが消えると対応が困難との議論があった。

(6) 25期の活動計画及びワーキンググループの設置

- ・森口委員長から事故と環境情報WG（23期～）について紹介があった。18題の話題提供があり、活発に行われた。事故進展（炉内事象）と環境情報側との情報交換は有意義であった。
- ・事故時の環境放出と拡散の予測・解析手法に関するWG「事故時の環境放出・拡散解析WG(仮称)」として再編したい旨提案があった。分科会所属の委員から支持を受けた。
- ・海洋放出についても検討した方がよいとの意見が出た。今後の計画放出も含めて同WGで取り上げるということで、「事故時の」を取り「環境放出・拡散解析WG」とすることが小委員長から提案された。
- ・廃炉過程での放出も視野に入れてはどうかとの意見があった。
- ・環境放出・拡散解析WGが設けられるのは気象分野にとっても有意義である、との意見があった。
- ・環境放出・拡散解析WGについて、被ばくの評価もスコープに入れてはどうかとの意見があった。
- ・データアーカイブズ（DA）WG（22期～）の再設置について提案があった。今期活動としては、名大から公開されたメタデータベースの運営他、学協会アンケートによる保有データの調査、筑波大でのデータdoi化の活動との連携、測定試料そのもののアーカイブ化についての議論の頭出し、等が提案された。
- ・サンプルアーカイブについては、事故当時の大気サンプリング（SPM）ろ紙試料を国立環境研で受け入れる活動が進んでいるとの紹介があった。

(7) その他

- ・汚染地域を研究フィールドとして保存する活動について、大阪大学と大熊町の取り組みについて紹介があった。
- ・事故後10年がたった現在、福島第一原発事故に関わる学術会議内での委員会等活動の把握と、横のつながりが必要との指摘があった。
- ・事故後10年たちデータが消失する事についての懸念が委員から表明された。
- ・次回の開催予定はオンライン会議を想定して追って調整。

配布資料

資料1 小委員会の設置提案書

資料2 小委員会委員名簿

資料3-1 小委員会第24期第4回議事録

資料3-2 報告「東京電力福島第一原子力発電所事故による環境汚染の調査研究の進展と課題」

資料4-1 第24期 放射線・放射能測定データアーカイブズワーキンググループ活動報告

資料4-2 第25期 放射線・放射能測定データアーカイブズワーキンググループ構成員名簿案

資料5 事故と環境情報の交流ワーキンググループの再編について（世話人提案）